

伊仙町町おこしへ 活発なトーク

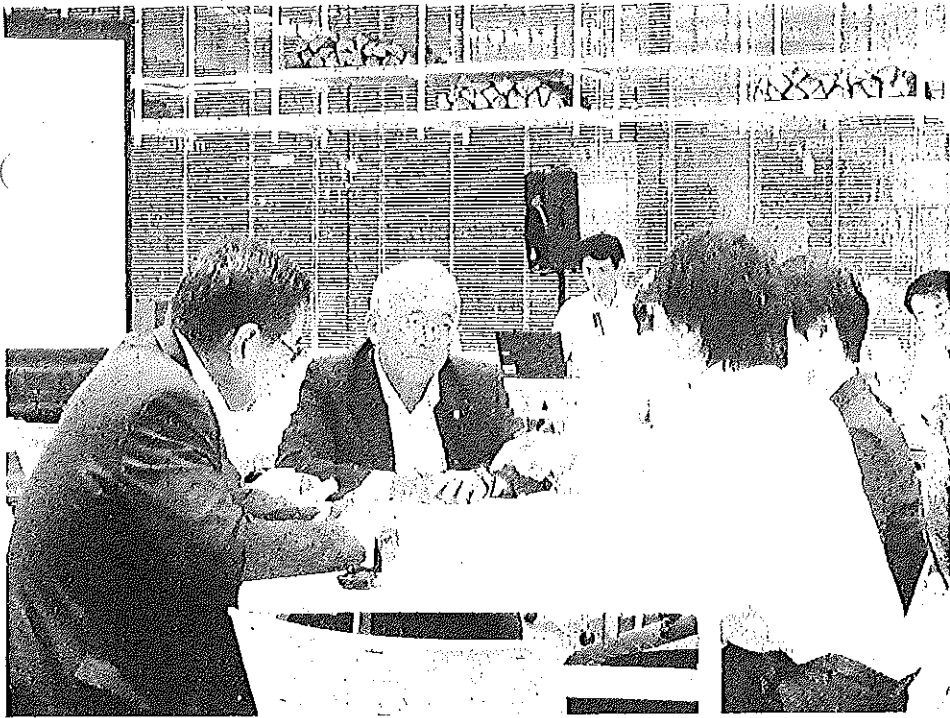
「丸の内プラチナ大学」

大久保町長も
アイデア礼賛

「ダイナミックに変えられる」

【東京】離島だからこそチャンスがある。伊仙町と共に輝く未来を目指そう。27日、東京・千代田区で「丸の内プラチナ大学」が開催され、約30人の出席者らが伊仙町の町おこしに何ができるのか、何をすべきかなど、活発なトークを展開。真剣なまなざしで熱のこもった「講義」が行われた。

「ヨソモノ町おこし」内プラチナ大学には、女のキャリアが参加し「コース」と題した丸の首都圏の企業で働く男。前半は伊仙町から



テーブルごとに行われる、町おこしへのテーマの発表に聞き入る大久保明伊仙町長

の報告がメイン。伊仙町未来創造課主事の松岡由紀さんが8日から6泊7日で22人が参加した「徳之島ダイエックトアイランドツアー」について報告。糖尿病の参加者の一人は薬が不要になった、東日本大震災の被災者の表情が一変したなど、「わずか1週間で人生を変えた参加者がいた」との実績が伝えられた。

また、松岡さん自身が移住者であり、子育てに携わる母親の立場から「基礎学力のアップ、キャリア教育、生まれ故郷へのプライドの確立」が必要だと説明。そのためには、学習支援センターのコーディネート、長寿子宝会社のマネジャー、徳之島観光連盟の事務局長などの人材が求められていると話した。

後半は、参加者が各テーブルで3〜5人のグループになり、それぞれ一人2分半ずつでプレゼンテーション。

前回7月に出された、町おこしに何をやるかの宿題の発表会となった。熱い議論の後、「徳之島カレッジを創設して、長寿と食べ物をアカデミックに研究する」「共に秀でた人に住居などを用意して移住してもらい、代わりに子どもたちに教育をしてもらう」「日本一子育てしやすい島に、育児休暇に入った夫婦に住んでもらう」「企業誘致に向けた視察ツアープロジェクト」など、優秀ビジネスプランが発表された。

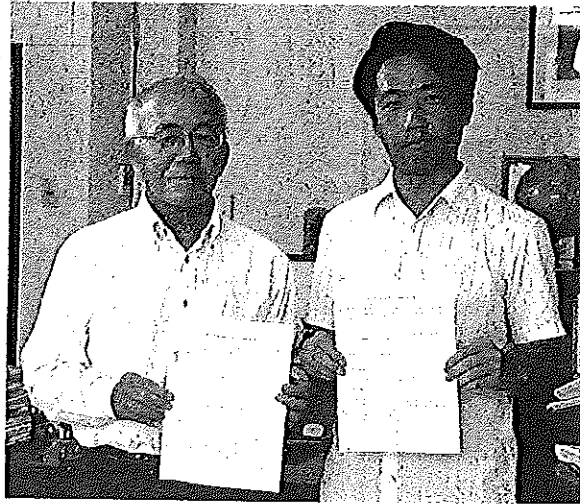
各テーブルで参加者の意見に耳を傾けた伊仙町の町おこし大久保明町長は、「力作がそろい感謝している。こうした企画をどう生かしていくのが課題。7千人の自治体だからこそダイナミックに変えられる」と手応えを感じていた。主催した、三菱総合研究所・プラチナ社会研究センター主任研究員の松田智生さんは、「離島にこそ最先端モデル、そんな逆転の発想が必要なんです」と意義を語った。その後、「町おこしは、教育×子育て×雇用×健康×観光×の組み合わせ型モデル」「丸の内プラチナ大学徳之島分校」などと総括。

なお11月4日から6日まで今回の参加者十数人で徳之島へのツアーが予定されている。

伊仙町、芝浦工大と移住促進協定

平成28年
8月3日(水)
1面

空き家情報共有し活性化へ



移住促進共同業務協定を締結した(左から)大久保明町長と芝浦工業大学の佐藤宏亮准教授。2日、伊仙町。

【徳之島総局】伊仙町と芝浦工業大学(本部・東京都港区)は2日付で、移住促進共同業務協定を締結した。町内の空き家情報を共有して、U・イターン者らの移住、定住促進に向けた活用策の研究に取り組み、相互に協力して地域活性化を進める。大久保明町長は「地方創生につながる試み。大きな効果に期待している」と述べた。

大久保町長 「大きな効果に期待」

同大学は2015年度、町が検福地区の空き家を改修して14年11月にオープンしたゲストハウス(簡易宿泊施設)「あむとろ」の活用策を探るプロジェクトに取り組んだ。

地域計画研究室の佐藤宏亮准教授と学生らが住民とのワークショップや聞き取り調査を行い、同施設を拠点に島暮らしを体験して移住につながるプログラムを地元側に提案した。

協定締結によって、町と大学との連携を強化して空き家の活用策の推進を図る。この日、同大学複合領域産官学民連携推進本部の村上雅人本部長の代形で佐

藤准教授が町役場を訪れ、大久保町長が協定書に調印した。

佐藤准教授は「人が大きく動き始める波が来ている。U・イターン者の定住促進に向けて、空き家という資源を活用して受け皿づくりを進める。青年団の力をサポートして、地元主体で取り組みを進めたい」と話した。

大久保町長は「学生と子どもたちや青年団

が交流して活力が生まれている。教育や人材育成などまちづくりの課題はたくさんある。出身者が帰ってくる魅力ある町にしたい」と取り組みの推進に期待した。

地方創生事業で住民説明会

買い物難民対策の要望も

伊 仙 町

【徳之島】伊仙町は、町地方創生事業の住民説明会を8日と9日にかけて町内東・中・西部の3会場で開いた。第5次町総合戦略の基本目標に掲げた「雇用」「結婚・出産・子育て」「長寿世界」を育んだ安心な暮らしの実現に向け、2016年度までに取り組んだ地方創生交付金活用事業の成果を報告。町農業支援センターの運営や生涯学習センター建設の検討など、今後の方向性や計画も示した。

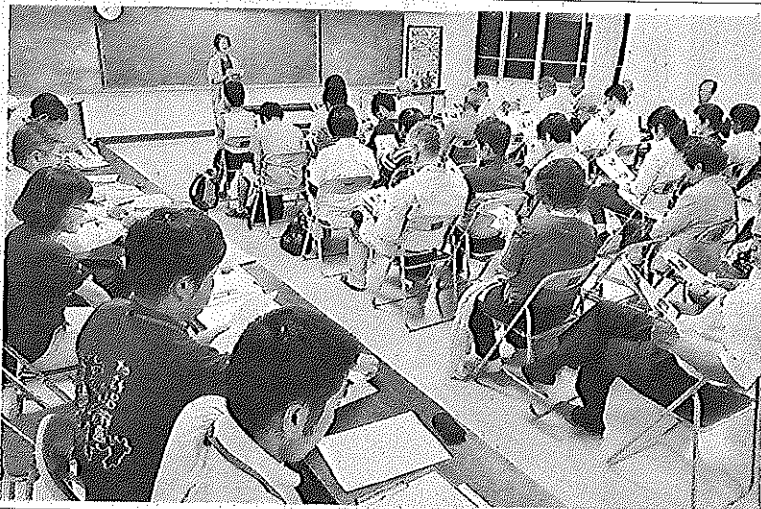
6日の同町は「らしい 方創生の目的や町総合 館(伊仙)を皮切りに 戦略の基本目標①安定 8日は町東公民館(面 した雇用創出②出生率 縄)9日は町西公民館 日本一の伊仙町ならで (天田布)であり、住民 はの結婚・出産・子育て ら関係者合わせ延べ約 環境づくり③時代に合 180人が参加。町の った地域、町への人の 担当課職員らが国の地 流れづくり、長寿世界一 業人材育成への「農業 研修センター設立」

を育んだ安心な暮らし (旧徳之島農高施設内) を守るーなどを解説。 △子宝・子育て支援の 創生事業(地方創生先 創生事業(地方創生先 行型交付金)などを活 用した成果として▽農 業人材育成への「農業 研修センター設立」

「小さな拠点づくり」 などを挙げた。 基本目標に沿った 今後の方向性と計画 には①農業支援センタ ー運営による新規就農 者の研修②生涯学習セ ンター建設検討事業、 いせん寺子屋、子宝観 光PR③空き家対策事 業・移住支援、ほいら い館の機能拡張など を提示。ほか、大手民 間企業と連携したサテ

ライトオフィス誘致計 画も示した。 質疑で参加者から は、大手量販チェーン 店の進出や過疎化にも 伴った零細商店の廃業 や高齢者の運転免許返 納なども背景に「高齢 者たちは買い物に苦労 している」と、交通弱者

伊仙町地方創生住民 説明会(町東公民館 会場)8日夜、面縄



・買い物難民対策や、 「世界自然遺産登録を 目指す関連事業などを 求める意見もあった。

空き家「かぎんローン」提携

鹿銀と伊仙町が覚書

【徳之島】伊仙町と(株)鹿児島銀行(本店・鹿児島市)は1日、「空き家対策事業の推進に関する覚書」を交わし



た。同行の地方創生取り組みの一環の「かぎん空き家対策支援ローン」と、同町空き家バ

ンク登録家屋のリフォーム費用の調達を双方で支援し、移住者向け物件の創出を後押しする。

同町は、2014年度からの住民説明会や、地方創生に関する各種事業の中で「住居の確保、空き家対策が移住者支援の大きな柱」と掲げた。今年7月1日に「地方創生空き家改修費補助金交付要綱」を施行。町空き家バンク設置要綱に基づいて登録された空き

家は、2014年度からの住民説明会や、地方創生に関する各種事業の中で「住居の確保、空き家対策が移住者支援の大きな柱」と掲げた。今年7月1日に「地方創生空き家改修費補助金交付要綱」を施行。町空き家バンク設置要綱に基づいて登録された空き

家物件の所有者・権利者を対象に、改修工事(一部修繕・補修・模様替え・取り換えなど)費用の2分の1以内(上限100万円)の助成を始めた。

一方で、空き家改修希望者の資金調達を支援する鹿児島銀行の「かぎん空き家対策支援ローン」は、地方創生取り組みの一環で15年7月1日から取り扱いは開始。これまで県内複数の市町村が提携。融資金額は10万円以上1500万円以内。融資金利率2・6%(同年現在、変動金利・保証料込み)、提携自治体の補助金受給

者は年利0・30%引き下げられる。自治体の仲立ちで無担保融資も可能という。

同町役場で覚書交換後、鹿児島銀行の森田勝弘徳之島支店長は「この空き家対策を通じて、長寿・子宝の町に多くの人が定着し、多くの子どもたちが生まれて欲しい。地方が活性化して伸びないとわれわれ地元金融機関も伸びない。伊仙町にはぜひ頑張ってもらいたい」と期待を寄せた。

町未来創生課によると、町内に把握の空き家は約400件。審査を経て空き家バンク登録済みは6件。今年度の町補助金(総額1千万円)の申請受け付けは今月31日まで。「かぎん空き家対策支援ローン」申請も町を通じて行われる。

町未来創生課によると、町内に把握の空き家は約400件。審査を経て空き家バンク登録済みは6件。今年度の町補助金(総額1千万円)の申請受け付けは今月31日まで。「かぎん空き家対策支援ローン」申請も町を通じて行われる。

「空き家対策事業の推進」で覚書を交わした伊仙町と鹿児島銀行(右・森田徳之島支店長)1日、同町役場

同町役場で覚書交換後、鹿児島銀行の森田勝弘徳之島支店長は「この空き家対策を通じて、長寿・子宝の町に多くの人が定着し、多くの子どもたちが生まれて欲しい。地方が活性化して伸びないとわれわれ地元金融機関も伸びない。伊仙町にはぜひ頑張ってもらいたい」と期待を寄せた。

町未来創生課によると、町内に把握の空き家は約400件。審査を経て空き家バンク登録済みは6件。今年度の町補助金(総額1千万円)の申請受け付けは今月31日まで。「かぎん空き家対策支援ローン」申請も町を通じて行われる。

同町役場で覚書交換後、鹿児島銀行の森田勝弘徳之島支店長は「この空き家対策を通じて、長寿・子宝の町に多くの人が定着し、多くの子どもたちが生まれて欲しい。地方が活性化して伸びないとわれわれ地元金融機関も伸びない。伊仙町にはぜひ頑張ってもらいたい」と期待を寄せた。

町未来創生課によると、町内に把握の空き家は約400件。審査を経て空き家バンク登録済みは6件。今年度の町補助金(総額1千万円)の申請受け付けは今月31日まで。「かぎん空き家対策支援ローン」申請も町を通じて行われる。

町未来創生課によると、町内に把握の空き家は約400件。審査を経て空き家バンク登録済みは6件。今年度の町補助金(総額1千万円)の申請受け付けは今月31日まで。「かぎん空き家対策支援ローン」申請も町を通じて行われる。

同町役場で覚書交換後、鹿児島銀行の森田勝弘徳之島支店長は「この空き家対策を通じて、長寿・子宝の町に多くの人が定着し、多くの子どもたちが生まれて欲しい。地方が活性化して伸びないとわれわれ地元金融機関も伸びない。伊仙町にはぜひ頑張ってもらいたい」と期待を寄せた。

町未来創生課によると、町内に把握の空き家は約400件。審査を経て空き家バンク登録済みは6件。今年度の町補助金(総額1千万円)の申請受け付けは今月31日まで。「かぎん空き家対策支援ローン」申請も町を通じて行われる。

町未来創生課によると、町内に把握の空き家は約400件。審査を経て空き家バンク登録済みは6件。今年度の町補助金(総額1千万円)の申請受け付けは今月31日まで。「かぎん空き家対策支援ローン」申請も町を通じて行われる。